

コンゴ（共）月例報告

2019年1月

【ポイント】

- 5日、コンゴ（共）・ガボン間を光ファイバーで結ぶ中部アフリカ基幹回線網計画（CAB）の第1フェーズが、昨年12月26日に完了していたことが発表された。
- 12日、UNDP と旧戦闘員再統合のための上級委員会は、プール県の13地区において、市民とニンジャ旧戦闘員間の対話のためのプラットフォームを開設した。
- 15日、サス・ンゲソ大統領は、カビラ大統領特使として派遣されたアントワン・ゴンダ元コンゴ（民）外相と面会し、昨年末に行われたコンゴ（民）大統領選挙に係る説明を受けた。
- 21日、ガノンゴ財政・予算大臣は、2月1日より、商業荷物の通関手続を2月1日以降インターネットで行うことを可能とする覚書に署名した。

◎特にソースが明記されていない場合は、「Les Dépêches de Brazzaville」、「les échos du Congo Brazzaville」、「ICI BRAZZA」、仏通信（AFP）及び仏ラジオ国際放送局（RFI）による

1 内政

（1）サス・ンゲソ大統領の新年祝賀式典

・ 8日、サス・ンゲソ大統領は、大統領府において新年祝賀式典を行い、政党関係者、市民社会、宗教団体等の代表と挨拶を交わした。

（2）エロンゴ氏、再び横領疑惑で起訴

・ 15日、ジャン・ディディエ・エロンゴ元公共市場管理総局長は、2009年から2018年にかけての5000万FCFAの横領疑惑で起訴された。同氏は、ブラザビル総合病院の塗装に係る7億FCFA横領の嫌疑につき、無罪判決を受けていたところだった。

・ 21日、エロンゴ被告は公金横領に係る公判で刑事裁判所に出頭した。同被告は、DGCMP職員の給与支払と称した架空予算を計上した罪に問われている。

（3）サリサ氏公判

・ 17日、2016年大統領選挙に立候補し国家内乱の罪及び武器の違法所持の罪に問われたアンドレ・オコンビ・サリサ被告の公判が控訴院にて行われたが、直ちに31日延期され、実質的な審議は行われなかった。

・ 31日、サリサ被告の公判が行われ、同被告は訴追されている全ての罪状に関する無罪を主張した。

2 プール県情勢

（1）市民・ニンジャ旧戦闘員間の対話のためのプラットフォーム設置

・ 12日、UNDP と旧戦闘員再統合のための上級委員会は、プール県の13地区において、市民とニンジャ旧戦闘員間の対話のためのプラットフォームを開設した。この取組の目的は、

戦争によって生まれた両者の恨みを緩和し、市民の心理的トラウマを軽減することにある。

3 経済

(1) ブヤ国土整備・施設・大型公共事業大臣が国道2号線を視察

・1日、ブヤ国土整備・施設・大型公共事業大臣は、ブラザビルとウエソ（サンガ県）を結ぶ全長835kmの国道2号線の視察を行い、特にプール県からプラトー県にかけての同国道の状態がきわめて悪いことを指摘した。同国道の工事を担う中国建築（China State Construction Engineering）は、財政面に加え、人員や物資の安全確保面でも困難に直面している。

(2) 中部アフリカ基幹回線網計画（CAB）の第1フェーズが完了

・5日、イヴォン・ディディエ・ミアカンダ・CABコーディネーターは、世界銀行とコンゴ（共）政府の共同出資によるCABプロジェクト第1フェーズが、昨年12月26日をもって完了したことを発表した。総工費1500万米ドルの本事業により、コンゴ（共）＝ガボン間を網羅する光ファイバーが敷設された。既に、カメルーン＝中央アフリカ間を結ぶ第2フェーズ（総工費80億FCFA）も開始されている。

(3) 統計作業能力強化プロジェクト（PSTAT）の2019年予算が採択

・11日、世銀とコンゴ（共）政府の共同出資により立ち上げられた統計作業能力強化プロジェクト（PSTAT）のパイロット委員会が、60億FCFAにのぼる2019年次予算を採択した。同委員会の活動は2021年4月まで継続予定。

(4) 通関手続がインターネットで可能に

・21日、ガノンゴ財政・予算大臣は、2月1日より、商業荷物の通関手続をインターネットで行えることを可能とする覚書に署名した。これにより、船で輸送される貨物は到着の48時間前、その他の交通手段で輸送される貨物は到着の24時間前から、オンライン上での通関手続が可能となる。同措置は、コンゴ（共）政府が2017年12月に加盟した「税関手続の簡易化及び調和に関する国際規約の改正議定書（改正京都規約）」の枠組に基づき執られたもの。

4 外交

(1) 二国間

ア サス・ンゲソ大統領が外交団を招待し新年の挨拶

・5日、サス・ンゲソ大統領は、コンゴ（共）に派遣されている外交団をブラザビルに招待し、新年祝賀の挨拶を行った。挨拶の中では、隣国コンゴ（民）の選挙に係る状況、ブルー基金への支援呼びかけ、リビア情勢等に言及した。

イ EU：コンゴ（共）のビジネス環境改善を支援

・ 9日、ロール・マティウス・ポーラ駐コンゴ（共）EU大使は、ブバ国会議長と面会を行った。ポーラ大使は、EUによるコンゴ（共）への支援において、中小企業の支援及びビジネス環境の改善を2つの中心軸に据えた第11次欧州開発基金（FED）の事業計画の実施意向を明らかにした。またEUは、クレーン設置を通じたブラザビル河川港の近代化、ポワント・ノワール漁港の建設、アントレプレナーの能力強化、トウモロコシの大規模生産等に係る事業計画を明らかにした。

ウ 中国

・ 10日、馬駐コンゴ（共）中国大使は、国費留学生OB及びコンゴ（共）政府メンバーが集まったレセプションの場において、コンゴ（共）教育分野における更なる投資の意向を明らかにした。人的資本への投資の重要性について議論が交わされた同会合において、馬大使は、2019年中国が多様な分野における研修事業を拡大していくことを約束した。

・ 31日、馬大使は、ブバ国民議会議長と面会し、両国の外交関係樹立55周年を大々的に祝う意向を表明した。

エ コンゴ（民）：大統領特使がサス・ンゲソ大統領と面会

・ 15日、サス・ンゲソ大統領は、カビラ大統領特使として派遣されたアントワン・ゴンダ元コンゴ（民）外相と面会し、昨年末に行われたコンゴ（民）大統領選挙に係る説明を受けた。

オ 伊：ドゥ・レオ・イタリア新大使が着任

・ 18日、新たに着任したステファノ・ドゥ・レオ駐コンゴ（共）伊大使が、フィルマン・アイェッサ副首相（改革・労働・社会保障担当）と面会した。両者はとりわけ公共行政を中心とした二国間協力について意見交換を行った。

カ ンゴロ上院議長、キューバ、ロシアの大使と面会

・ 18日、新たに着任したジョゼ・アントニオ・ガルシア・ゴンザレス駐コンゴ（共）キューバ大使が、ンゴロ上院議長と面会を行い、両国の国会外交の強化について意見を交換し、コンゴ・キューバ友好議員連盟への期待を表明した。また同日、ンゴロ議長はヴァレリー・ミカイロフ駐コンゴ（共）ロシア大使とも面会し、主にリビア、中央アフリカ、コンゴ（民）情勢についての議論を交わした。

（2）多国間

ア サイド国連大湖地域担当特使がサス・ンゲソ大統領に離任前挨拶

・ 31日、サイド・ジニット国連事務総長特別代表（大湖地域担当）が、サス・ンゲソ大統領と面会を行い、離任前の挨拶を交わし、中央アフリカやブルンジの対話プロセスに関する意見交換を行った。